

凡
石
の
葉
の
評



特別
へ 13
3635



特

門へ13
號3635
卷

序

皇藏院印

昭和十二年六月八日
宮川曼太郎寄贈

不^ふ時^ト不^ふ吹^ト哉^ト五^ト狗^ト風^ト
少^少乙^乙。當^{あて}前^前々^々可^可哉^哉天^天狗^狗
殊^子と^と峰^峰。五^五狗^狗輕^輕母^母子^子。天^天
特^特施^施諧^諧等^等。三^三以^以阿^阿人^人一^一

あつて人際^{ひま}に法^ほの^ろ中^{ちゆう}也
法^ほ其^{その}子^こ能^{のう}見^みを^を又^{また}の^の之^の

人^{ひと}法^ほ目^めを^をと^とくら^{くら}ま^まさ^さし^しま^まえ^え

あつて^{あつて}ば^ばり^りに

ま^まと^とう^うり

山^{やま}乃^のて^て物^{もの}ぞ^ぞの^のれ^れし^し

と^と口^{くち}す^すさ^さま^まん^ん一^一座^ざの^の
笑^{わら}程^{ほど}と^と一^一者^{もの}也^{なり}。今^{いま}
書^{しよ}林^{りん}に^にま^まと^とま^まり^り
應^{おう}し^し一^一者^{もの}一^一者^{もの}を^を
ぬ。

大場豊水誌



自序

むくしく著。世又六山一うみ。娘は
 川洗せん漂くふとの娘のげと係と老の志
 とすまえを欠一うらみとひひ一年
 冬業の伊人目とすりいもんでんころり
 山椒味増うき命と座やうと鳥吹ひき匠
 娘も共う亭まよ打赤浦矢りり史家

未世のし葉をいぬる中お休雲うまを
雲のくも多付るお祖父山より立候
おの娘が飛ぶくともまはくとも上土
色々中けしおの宮の事か〜んおん
半ごくとおのいとしはくもそおん
了の始り〜

成乃九月

凡葉山人誌



飛ぶ鳥の評

家も不徒おのりて終る。日く〜硯ふ
むらしておのり〜り〜か〜まを
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
お角ちの智恵の底を叩て工夫
仕出〜金ま夜うら草くさも存ぞんの雨天あめ
〜つ〜のひよ岸ぎしああけけ結むすびび〜人ひとハハ草くさ

華や一の別荘に凡特でもやけ酒を
でもちの酒人の健任存吟言は負樂
のこやしは。主人う歌りや飯粒紙
二百を三百を。肩て中川の河原
物身ふく魚ハ苦もやり。花二株
を赤工面まうや四時皆女房り
悟心床免も麻くもむとハ二人で
きもろり関くも雌鳩ハ三股の物
まのう窈窕たる妓女ハ中洲も好
速ありと。口をさみく。新し表の
方ハ人声して飛びるもしく。市川
堂すゆらさ事の大評判。又波は家
後庭でささる。惚るも。福さる。ほい
惚るふめり。花さるもしく。

上とく。或ハ女のくせ楷さ并り。手て拭ぬ流なが衣い烟えん
草くさ入い。良よ良よ有あ。其その後のちとと身み。事こと是こゝ六むハ
不しん痛いた。其そのああががしし。付つききををのの杖つゑや
亭てい。ままううづづ坊ぼうととふふおおとと。後のち男おとこの
方かた子こ科かハハやや。又また真ま勅しつのの女に中ちゆうるるんん。
けけとと求もと縁縁。ととままううてて。扇あふ楊やう枝えるるよよ。
汲ひ者ものおおももはは。おお発はつ白はくととままううてて。若わかきき。

是こゝととるるふふ。子こ祀い所しよのの由よし華か宮みやのの由よし也なり。
色いろ紙し。ううもも務ま小こののとと也なり。ままううてて。子こ差さ。
万ま別べつ蓼れう字じ中ちゆうもも好このくくとと。色いろくく。良よ良よ有あ。
くく。或あるハハ西せいのの下した機き也なり。通とううななづづ。乃なり。
於お伺ご。夫そのくく。熱あつ。ううままきき。水みづ。種たね。杖つゑとと。
ののままととままんん。中ちゆうもも。後のち京きやうののめめきき。糸いと。
借かり人ひとのの仕し合あ。貸か人ひとのの欲よくひひ。ささ。小こハハ奴やつ。

教て曰。小善如うとて拵ぐるは。小悪
がよりとて拵ぐるも。是れ。是れ六一通り
志し。事なり。寐て。起て。飯と
汁と。香のお斗。食て。居る。病氣
出。甚。も。も。う。は。い。の
け。く。あ。は。あ。ん。ぢ。人。欲。と。て。百。病。ハ
ア。う。う。入。徳。事。の。災。彼。示。う。お。こ。る。

是も親父のいそぐれと。女房針が。ち
て。居。れ。徴。瘡。も。う。び。残。も。入。り。結
拵。り。も。ち。な。し。も。あ。も。人。も。あ。つ。で
ん。踏。え。ぐ。い。も。あ。ち。れ。も。同。一
探。り。踏。え。う。う。で。も。あ。も。い。も。せ。ぬ
る。も。い。は。だ。が。も。い。ね。い。必。ず。い。も。あ
あ。ち。う。う。あ。い。人。の。業。が。古。々。一。なる。

饒別ニハコをばやる一書ニハコのてとく丸出
てんやうなる

口人何某ニハコ示ん

予若年の時漢書と讀むニハコの初関
中ニハコ入て秦の苛法と去法ニハコ二章と
之ニハコも自法ニハコ之章ニハコと治して血氣
のニハコ林ニハコと人ニハコ盜持ニハコ突密夫ニハコなり。以この

西ニハコまの公ニハコ也ニハコさうニハコの事ニハコなり
我ニハコ去ニハコすニハコあニハコるニハコさニハコるニハコこと
林ニハコ示ニハコしニハコしニハコ

大石ニハコのニハコ分ニハコ分ニハコのニハコ在ニハコ入ニハコのニハコ面ニハコをニハコま
るニハコ世ニハコのニハコ分ニハコ流ニハコのニハコまニハコのニハコ事ニハコなり
只ニハコ欲ニハコとニハコすニハコるニハコ事ニハコなり
のニハコ欲ニハコとニハコすニハコるニハコ事ニハコなり

菟る休皆飲し持し。付むんハハ
うん^{オキヤ}の位^シ中^ガ思^ハしと思^ハふ。あ
ちのお^ウこち^ク此^ハ稱^シ鐘^ガを^シ。
面^ハま^シる^ハな^ハび^シま^シも^ハ思^ハふ^ハ飲^シを^シ付
と^シま^シる^ハ。お^ウこ^チを^シま^シる^ハ。
思^ハふ^ハ酒^ハと^シ吞^ハれ^ル。酒^ハを^シあ^シる^ハ
思^ハふ^ハ酒^ハを^シあ^シる^ハ。

友人何某ハハ^ハ出^シた^ハを^シ笑^ハし^テ。ま^シる^ハ
ま^シる^ハ。或^ハ人^ハ信^ハじ^テま^シる^ハ。
同^ク曰^ク。汝^ハの^ハ首^ハを^シあ^シる^ハ。友人曰^ク。予^ハ曰^ク
首^ハの^ハハ^ハの^ハ髪^ハを^シあ^シる^ハ。今^ハ余^ハ
て^シま^シる^ハ。予^ハ曰^ク。大^ハ夫^ハ夫^ハま^シる^ハ。
予^ハ曰^ク。大^ハ夫^ハ夫^ハま^シる^ハ。
予^ハ曰^ク。大^ハ夫^ハ夫^ハま^シる^ハ。

事固^{ことごと}くを思^{おも}ふ。ついでに^{ついでに}を思^{おも}ふ。思^{おも}て首^{くび}
の夜^よぎらぬ。用^{もち}をま^まに^に華^{はな}ありてま^まな^な
ハ道^{みち}をたの^{たの}し^しみ^みを^を又^{また}同^{どう}ハ首^{くび}乃^のが^が
つて^{つて}華^{はな}多^たき^きぶ^ぶ。孟子^{孟子}の^のみ^みよ^よ入^いて
大^{たい}禁^{きん}と^と同^{どう}。首^{くび}の^の用^{もち}を^を又^{また}思^{おも}ふ^ふと^と入^いて^て後^{あと}
よ^よき^きと^と禁^{きん}の^の二^に勉^{めん}と^とん

必^{かならず}分^わる^るの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。

扁^{ひの}柏^{まき}の上^の材^ま本^{もと}て^も。お^およ^より^りと^と絶^たる^る掛^か
せ^せ入^い。先^まの^の答^{こた}へ^へて^て意^い削^け益^{えき}材^ま。其^{その}後^{あと}
史^しの^の朽^く走^{そう}入^いぎ^ぎ。ハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。
り^り。彼^かの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。
お^およ^より^りと^と集^ある^る。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。
思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。
の^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。思^{おも}ふ^ふハ^ハの^の思^{おも}ふ^ふ。

